

秋葉原電気街地区TDM実証実験の概要

(平成15年7月～平成17年3月)

背景

「秋葉原電気街」東側の秋葉原駅周辺では、再開発事業が行われておりITセンター(仮称)や商業施設、居住施設、常磐新線の開業が予定され、今後国内外からのより一層の集客が予想されている。この再開発地区との融合による相乗効果を期待される秋葉原電気街地区は中低層ビルが密集し、歩行者と物流車両、通過自動車や路上駐車車両が混在している。本実証実験で物流の効率化を図るとともに路上駐車対策を実施することにより来街者が安全で利用しやすいまちづくりを目指していく。

実証実験の概要

1. 秋葉原電気街地区における物流の共同化(共同物流センターを設置し、センターから店舗までの配送を共同化するとともに、検品作業などにRFID(電子タグ)を活用して物流の効率化を図る。)
2. 共同荷捌きスペースの確保と運用(路外、路上に荷捌きスペースを設置し、ルールを定め、路上駐車の高減を図る)
3. 貨物集配車の時間帯別運用(貨物車の配送時間帯を調整し、一般車の駐車時間帯と区別し違法駐車や交通混雑の解消を図る)
4. 歩行者優先空間の創出(歩行者優先道路を設置し、自動車などが進入しないよう協力要請することにより、安全で快適な歩行者空間の形成を図る)
5. 駐車場マネジメント(駐車場情報の提供などを行い既存の駐車場を有効に活用し、路上駐車の高減を図る)

1. 秋葉原電気街地区における物流の共同化

- 共同配送用にCNG車を活用し、環境負荷を低減



- 共同物流センター内における検品作業に電子タグを活用し、作業時間を短縮



2. 共同荷捌きスペースの確保と運用

- トラックが駐車できるようにパーキングメータ前の枠を拡大し、共同荷捌きスペースの活用を促進



4. 歩行者優先空間の創出

- 車両進入自粛の看板と警備員



- 車両進入自粛により、二輪車(自転車類)の違法駐車も削減



関係行政機関等によるTDM実証実験の支援 (関東運輸局、関東地方整備局、東京都、千代田区、警視庁)

実験の成果

- 【1.物流共同化】 共同物流センターから店舗までの配送の共同化により、期間中(1ヶ月)のトラック走行距離が実施前と比較して68.3%、NOxが68.8%、CO2が68.7%削減。また、共同物流センターにおける入庫検品～仕分け作業にRFID(電子タグ)を活用することにより、活用前と比較して41.5%の作業時間を短縮。
- 【2.共同荷捌きスペース】 中央通沿いのパーキングメータや停車可能スペースを荷捌きスペースとして設置した結果、1日あたりの路上駐停車車両が平均で14.6%減少。
- 【3.貨物配送車時間帯別運用】 対象エリアにおける貨物車両の流入台数ピークが、実験前で午前9時と午後2時であったが、実験中では一般車両や来街者の少ない午前10時のみへのシフトに成功。
- 【4.歩行者優先空間】 中央通西側地区への車両進入禁止を要請することにより、同地区への自動車類の流入量が31.1%削減。来街者のアンケートでも安全性・快適性の向上を感じる評価を得ることができ、90%近くが継続を希望。
- 【5.駐車場マネジメント】 ホームページやたて看板を活用して駐車場の位置情報や満空情報を提供することにより、1駐車場あたり最大で、1日の稼働率が11.0%上昇。

実験後の状況

- 物流共同化に関しては、初期費用の負担方法やメリットの享受方法、参加店舗の拡大などの課題を解決する必要があり、引き続き導入に向けた検討を継続。
- 来街者の評価の高かった歩行者優先空間の創出について、地元関係者が中心となり継続実施に向けた調整を開始。
- 駐車場マネジメントについて、地元行政機関及び駐車場事業者等が中心となり平成17年度より実現に向けて具体的に検討中。